

愛宕神社とみなみがわ散策道を舞台に地域の未来を描いた4ヵ月

ストリートデザインスクール @ 杉戸 成果報告会レポート

受講生が地域課題の解決に挑んだ「ストリートデザインスクール@杉戸」の成果報告会が3月8日(土)に杉戸町コミュニティセンターで開催され、地域活性化と未来のまちづくりに向けた活動の成果が共有されました。

ストリートデザイン
スクールとは？

受講者がまちづくりや建築の専門家から助言を受け、公共空間で地域課題解決の企画を提案、実現するスクールです。



Aグループの後藤さん(写真上)、Bグループの佐藤さん(写真下)を代表に、受講者が地域の課題にどのように取り組む、学びを深めたかを報告しました。



地域の歴史と地域活動への思いを語る石井区長。

楽しさであっという間だったと振り返る木村区長。



SDS ディレクター藤村氏。
温かな言葉が印象的でした。

昨年12月に始まった「ストリートデザインスクール@杉戸」(以下、SDS)。15人の受講生たちが地域活性化のためのアイデアを社会実験「まちなかキャンパス」として実施し、その成果を報告会で発表しました。藤村龍至さん(東京藝術大学准教授)の挨拶では、『杉戸町での社会実験は、今までにないオリジナルな実験だと思います』と評価され、杉戸町ならではのアイデアが盛り込まれた社会実験だったことが感じられました。

SDSでは、受講生が愛宕神社とみなみがわ散策道でそれぞれ企画を実施。Aグループは散策道でチョークアートやデザインシート遊び、花販売を行い、Bグループは愛宕神社で灯籠ワークショップや野菜・駄菓子・珈琲販売を実施。『普段の通学路をチョークアートやデザインシートで明るい風景に演出することができた』『地域住民や参拝者が自然に交流する様子に地域のつながりを再認識した』と、それぞれの成果や手応えを語ってくれました。

また、報告会には区長の木村さんと石井さんも参加。木村さんは「熱い思いを持った方々が集まり、どう向き

合うかを考え進めていく大切さを感じました」とコメント。石井さんは「チョークアート後に子どもたちが自主的に掃除に取り組む姿勢が印象的で、こうした体験が次世代にとって大切ですね」と述べました。

地域活性化と未来のまちづくりを考える場となったSDS。その報告会は、SDSが単なる地域イベントにとどまらず、将来に向けた深い活動が地域に根付き、次世代に向けた新たな価値創出へとつながることが期待される内容でした。

ストリートデザインスクール@杉戸 社会実験 「まちなかキャンパス」フォトギャラリー

3月1日(土)に開催されたストリートデザインスクールの社会実験「杉戸まちなかキャンパス」。地域の魅力を再発見し、アートを通じて公共空間を彩るイベントの様子を写真でお届けします。



参加者全員でバシャリ! 晴れやかな笑顔が輝くスタートの瞬間。



3月とは思えない暖かさの中、「杉戸まちなかキャンパス」が開催されました。当日は、愛宕神社とみなみがわ散策道を舞台に、ミニ灯籠への絵付けや、チョークアートで道に大きな川を描く体験などを実施。杉戸農業高校の花の販売や、杉戸宿珈琲や駄菓子屋の出店、ばばちゃんめしの野菜販売も賑わいを見せました。訪れた人々は笑顔で交流し、地域の魅力を再発見する機会となりました。



ばばちゃんめしによる神社境内の野菜販売。手作りのチラシを買い物袋にして販売しました。



普段の通学路が絵やデザインシートで夢の空間に! 終了後は子どもたちも自らきれいにしました。



絵を描いた灯籠が愛宕神社境内に並び、子どもたちの想いが形となって並びました。



杉戸農業高校生が育てた花々を屋台で販売。散策道が華やかに彩られました。

